

スーパーマーケット販売統計調査資料

6 月実績 速報版(パネル 270)

5 月実績 確報版(パネル 270)

2020 年上半期(1~6 月)実績速報版(パネル 270)

(2020 年 7 月 21 日公表)

調査資料概要

【パネル 270 社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:前月販売実績を速報値として公表 確報版:速報値に精度の高い集計を加え確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較 既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮三部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜	惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタアペーカリー、ファーストフード	
		日配	豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム	
		一般食品	調味料、瓶詰詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類	
	非食品	日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具		
その他	テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)			

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城。山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州地方・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄
北日本日本海側	北海道の日本海側とオホーツク海側(宗谷南部)、東北日本海側
太平洋側	北海道の太平洋側とオホーツク海側(網走・北見・紋別地方)、東北太平洋側
東日本日本海側	北陸地方
太平洋側	関東甲信、東海地方
西日本日本海側	近畿日本海側、山陰、九州北部地方
太平洋側	近畿太平洋側、山陽、四国、九州南部
沖縄・奄美	鹿児島県奄美地方、沖縄地方

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2020年7月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2020年6月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	93,697,023	100.0%	105.9%	104.5%
食品合計	84,433,033	90.1%	105.9%	104.5%
生鮮3部門合計	32,463,436	34.6%	108.8%	107.3%
青果	13,341,151	14.2%	109.6%	108.3%
水産	8,090,461	8.6%	108.2%	106.6%
畜産	11,031,825	11.8%	108.3%	106.7%
惣菜	9,084,885	9.7%	100.1%	99.0%
日配	18,685,257	19.9%	106.0%	104.4%
一般食品	24,199,455	25.8%	104.2%	103.0%
非食品	7,000,086	7.5%	109.9%	108.9%
その他	2,263,949	2.4%	96.9%	97.0%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	12,915,240	43	106.3%	104.8%
関東地方	34,792,498	73	106.0%	104.9%
中部地方	11,660,426	53	108.0%	105.2%
近畿地方	19,956,316	44	104.4%	103.5%
中国・四国地方	9,380,525	34	106.2%	105.4%
九州・沖縄地方	4,992,019	23	105.2%	102.7%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	683,083	47	99.9%	104.0%
4~10店舗	4,414,917	78	103.5%	104.4%
11~25店舗	10,411,660	58	106.8%	105.2%
26~50店舗	16,228,771	43	105.7%	104.7%
51店舗以上	61,958,593	44	106.0%	104.4%

集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	91,700,962
総店舗数 (店舗)	8,016	店舗平均月商 (万円)	11,689
総売場面積 (㎡)	13,344,836	売場1㎡あたり売上高 (万円)	7.0

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2020年7月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2020年5月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	100,086,381	100.0%	111.5%	109.9%
食品合計	91,342,313	91.3%	112.7%	111.0%
生鮮3部門合計	35,794,341	35.8%	116.8%	115.1%
青果	14,694,297	14.7%	117.9%	116.3%
水産	8,690,128	8.7%	111.6%	110.0%
畜産	12,409,916	12.4%	119.3%	117.4%
惣菜	9,215,721	9.2%	99.0%	98.0%
日配	20,259,859	20.2%	113.7%	111.6%
一般食品	26,072,391	26.0%	111.9%	110.2%
非食品	6,372,855	6.4%	104.2%	103.0%
その他	2,371,258	2.4%	94.4%	95.7%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	13,827,277	43	111.5%	109.6%
関東地方	37,877,169	73	113.4%	112.3%
中部地方	12,606,004	53	114.0%	111.1%
近畿地方	20,694,529	44	107.9%	106.8%
中国・四国地方	10,050,246	34	111.7%	110.7%
九州・沖縄地方	5,031,156	23	104.6%	102.5%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	755,298	47	107.4%	110.0%
4~10店舗	4,814,866	78	109.4%	110.3%
11~25店舗	11,191,525	58	113.1%	110.9%
26~50店舗	17,398,977	43	111.3%	110.5%
51店舗以上	65,925,714	44	111.4%	109.6%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	97,808,387	
総店舗数 (店舗)	8,020	店舗平均月商 (万円)	12,480	
総売場面積 (㎡)	13,353,132	売場1㎡あたり売上高 (万円)	7.5	

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2020年7月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2020年上半期（1～6月）実績速報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同期比 （全店）	前年同期比 （既存店）
総売上高	563,028,769	100.0%	107.6%	106.1%
食品合計	508,718,549	90.4%	108.3%	106.7%
生鮮3部門合計	195,402,898	34.7%	109.4%	107.8%
青果	78,945,615	14.0%	109.0%	107.5%
水産	48,767,277	8.7%	107.0%	105.3%
畜産	67,690,005	12.0%	111.6%	109.9%
惣菜	54,541,500	9.7%	101.0%	99.7%
日配	111,818,053	19.9%	109.4%	107.6%
一般食品	146,956,100	26.1%	108.9%	107.5%
非食品	38,292,824	6.8%	103.9%	101.6%
その他	16,017,395	2.8%	95.6%	96.0%

エリア別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同期比 （全店）	前年同期比 （既存店）
北海道・東北地方	76,957,365	43	106.9%	105.3%
関東地方	211,664,185	73	109.3%	108.1%
中部地方	69,571,991	53	108.3%	106.1%
近畿地方	119,647,300	44	105.5%	104.3%
中国・四国地方	55,913,793	34	107.4%	106.3%
九州・沖縄地方	29,274,135	23	103.5%	101.4%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同期比 （全店）	前年同期比 （既存店）
1～3店舗	3,858,891	45	103.0%	104.9%
4～10店舗	26,658,216	79	104.5%	105.5%
11～25店舗	62,968,079	59	108.1%	106.4%
26～50店舗	96,947,167	43	107.3%	105.9%
51店舗以上	372,596,416	44	107.8%	106.2%

※保有店舗数カテゴリーは2020年1月時点での保有店舗数による分類

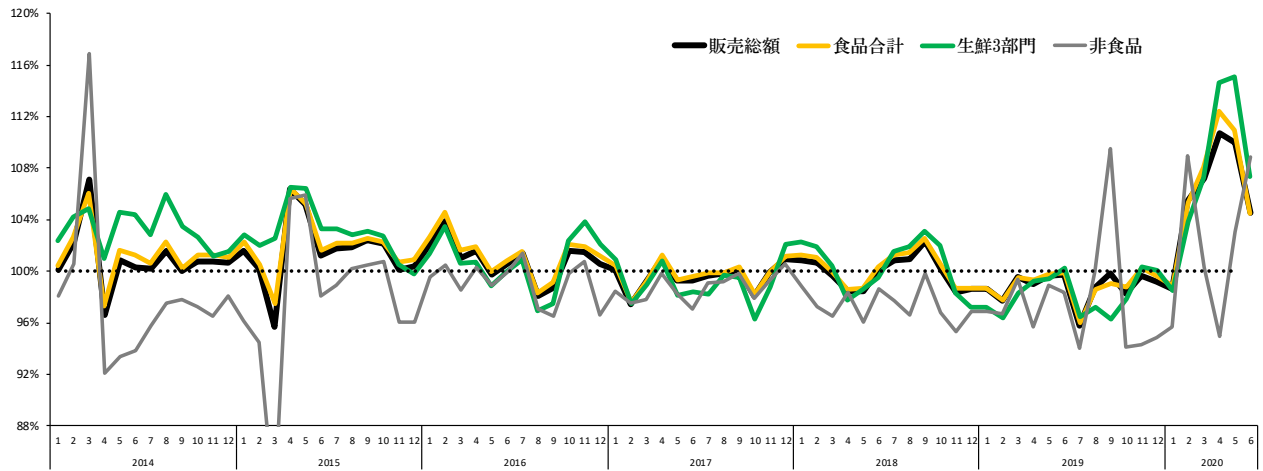
集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	548,813,466
----------	-----	-------------	-------------

※売上高は税抜金額

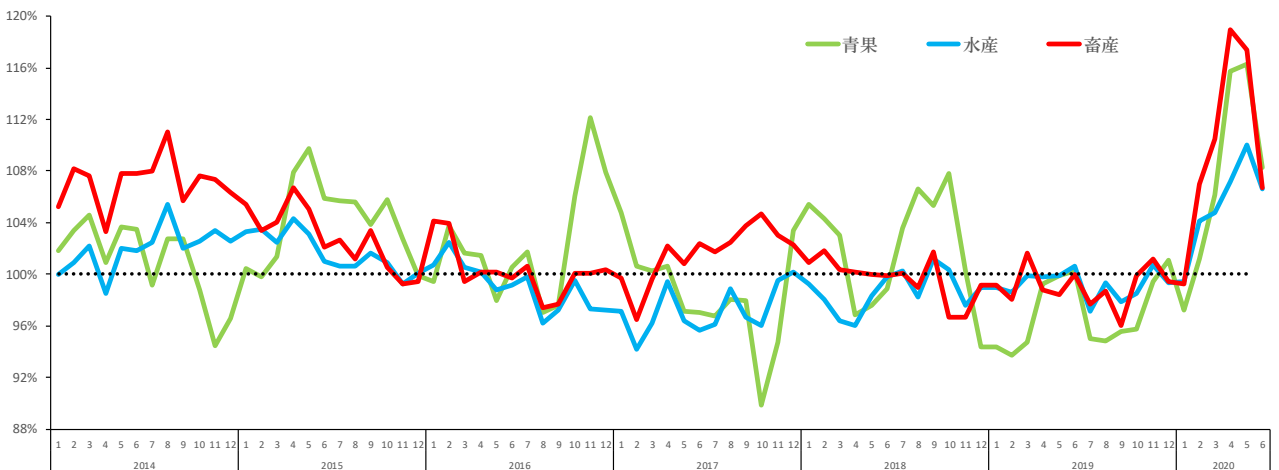
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計(パネル270) 既存店前年同月比推移 2014年1月～

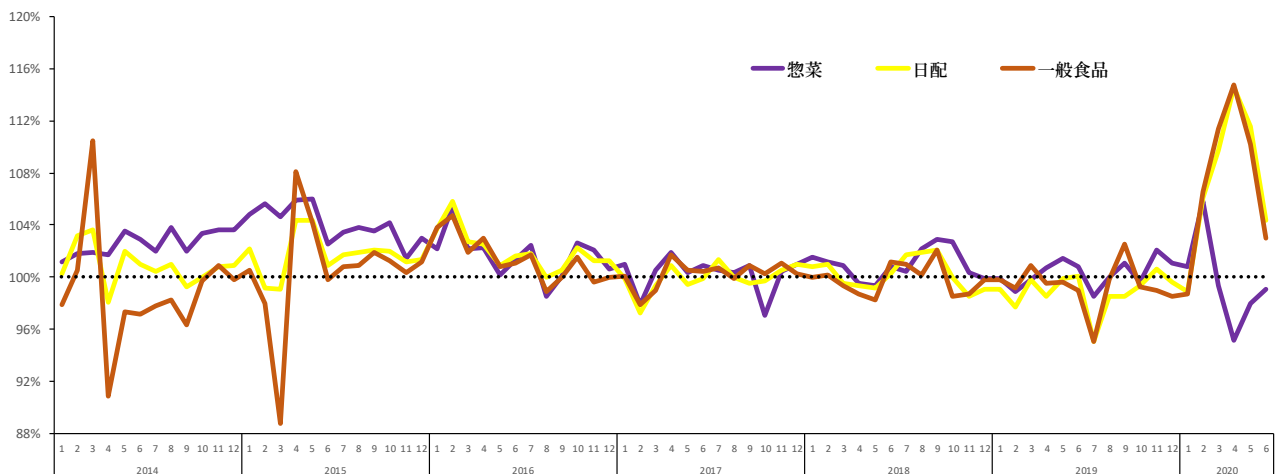
総売上高・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2020年6月実績は速報値

2020年6月エリア別気候状況

気温の特徴：全国的にかなり高かった

上旬：全国的にかなり高かった。

中旬：全国的にかなり高かった。

下旬：東・西日本と沖縄・奄美で高かった。

2019年6月との比較：全国的に上旬から中旬にかけてかなり気温が高くなった

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2020年6月			2019年6月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	2.7	1.9	0.2	1.7	-0.1	0.5	1.0	2.0	-0.3
太平洋側	3.3	3.1	0.2	1.7	0.2	0.3	1.6	2.9	-0.1
東日本 日本海側	2.8	1.3	1.5	1.2	-0.5	0.8	1.6	1.8	0.7
太平洋側	2.9	1.7	1.1	0.6	-0.4	0.9	2.3	2.1	0.2
西日本 日本海側	2.3	1.2	1.2	1.1	-0.8	0.4	1.2	2.0	0.8
太平洋側	1.7	1.2	0.8	0.9	-0.6	0.5	0.8	1.8	0.3
沖縄・奄美	1.4	2.3	0.6	1.5	-0.9	-0.8	-0.1	3.2	1.4



日照時間の特徴：東日本日本海側でかなり多かった

上旬：北日本太平洋側と東日本日本海側でかなり多く、北・西日本日本海側と東日本太平洋側で多かった。

中旬：沖縄・奄美でかなり多かった。一方、西日本太平洋側でかなり少なく、北・東・西日本日本海側で少なかった。

下旬：東・西日本日本海側でかなり多く、西日本太平洋側で多かった。一方、北日本と沖縄・奄美でかなり少なかった。

2019年6月との比較：上旬は全国的にやや多く、中旬は沖縄を除いてかなり少なくなった。

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2020年6月			2019年6月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	126	81	60	118	102	88	8	-21	-28
太平洋側	154	104	43	112	110	88	42	-6	-45
東日本 日本海側	146	81	161	102	126	114	44	-45	47
太平洋側	126	90	100	80	155	105	46	-65	-5
西日本 日本海側	122	62	189	96	136	148	26	-74	41
太平洋側	104	62	146	92	143	112	12	-81	34
沖縄・奄美	109	190	71	85	79	51	24	111	20



降水量の特徴：沖縄・奄美でかなり多く、北日本日本海側と東日本太平洋側、西日本で多かった

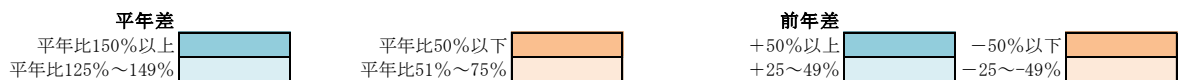
上旬：沖縄・奄美でかなり多かった。東日本太平洋側と西日本日本海側でかなり少なかった。

中旬：東・西日本でかなり多く、北日本太平洋側で多かった。一方、沖縄・奄美でかなり少なかった。

下旬：北日本と東日本太平洋側、沖縄・奄美で多かった。一方、東日本日本海側で少なかった。

2019年6月との比較：上旬は東日本や西日本でかなり少なく、中旬は東日本や西日本でかなり多くなった

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2020年6月			2019年6月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	50	128	180	60	104	140	-10	24	40
太平洋側	48	115	136	69	151	130	-21	-36	6
東日本 日本海側	15	283	61	189	123	140	-174	160	-79
太平洋側	26	196	128	236	94	106	-210	102	22
西日本 日本海側	4	329	106	124	77	67	-120	252	39
太平洋側	51	217	91	88	77	90	-37	140	1
沖縄・奄美	277	14	217	168	135	261	109	-121	-44



気象庁報道資料「6月の気候」を参考に事務局作成
平年値は過去30年 (1981年~2010年) の平均

スーパーマーケット景気動向調査

2020年7月調査結果（6月実績）
（2020年7月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1.経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2.カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1.景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

7月調査（6月実績）結果概況

景気判断DI 現状判断は50を下回る

6月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は、前月から-7.3の45.8、見通し判断は前月から+0.1の35.8となり、現状判断は大きく悪化し、判断の分かれ目となる50を下回った。

経営動向調査では、売上高DI、収益DIは共に二桁のプラスを維持した。土日が一日少ない曜日巡りや買物頻度の抑制により来客数DIは低下したが、家庭内食品需要の高まりによる買い上げ点数の増加により客単価DIは高水準を維持した。また特売の自粛により販売価格DIが二桁プラスを維持したことも支えとなった。

カテゴリー動向調査では、前月同様中食需要の減少に加え、行楽や行事の中止、バラ売り販売の自粛の影響があった惣菜カテゴリーDIのみがマイナスとなった。手作り（調理）向け食品に加え、平均より高い気温で推移したことで夏物商材も好調となり、他のカテゴリーDIは二桁のプラスとなった。また、マスクや衛生用品、家庭用品が好調な非食品DIも引き続き高水準を記録した。一部商品には、キャッシュレス・消費者還元事業終了前の駆け込み消費もみられた。

景況感調査は、景気判断DIや消費者購買意欲DIの現状判断に悪化がみられた。その一方で、店舗周辺地域景気判断DIは横ばい推移となった（長期傾向についてはp11参照）

緊急事態宣言が解除され、保存食品への需要は落ち着きがみられつつある一方で、家庭内調理用食品への需要は高い状態が続いている。消費者の新しい生活への試行錯誤が続くなか、感染拡大以前に戻る消費と戻らない消費の見極めが重要となるだろう。

景況感調査

現状判断

景気判断DI
当月：45.8 (-7.3)
前月：53.1

消費者購買意欲DI
当月：51.6 (-11.3)
前月：62.9

周辺地域 競合状況DI
当月：44.8 (-3.5)
前月：48.3

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：41.1 (-1.7)
前月：42.8

見通し判断

景気判断DI
当月：35.8 (+0.1)
前月：35.7

消費者購買意欲DI
当月：39.7 (-2.5)
前月：42.2

周辺地域 競合状況DI
当月：42.1 (-0.4)
前月：42.5

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：36.2 (+1.1)
前月：35.1

経営動向調査 経営状況

売上高DI
当月：15.3 (-10.4)
前月：25.7

客単価DI
当月：26.1 (-6.3)
前月：32.4

来客数DI
当月：-12.4 (-3.3)
前月：-9.1

収益DI
当月：17.9 (-8.8)
前月：26.7

販売価格DI
当月：10.2 (-1.7)
前月：11.9

生鮮品仕入原価DI
当月：8.5 (-0.4)
前月：8.9

食品仕入原価DI
当月：6.1 (-1.0)
前月：7.1

カテゴリー動向

青果DI
当月：22.8 (-8.3)
前月：31.1

水産DI
当月：17.2 (-3.8)
前月：21.0

畜産DI
当月：18.0 (-14.9)
前月：32.9

惣菜DI
当月：-5.9 (+3.7)
前月：-9.6

日配DI
当月：14.2 (-14.7)
前月：28.9

一般食品DI
当月：12.5 (-10.7)
前月：23.2

非食品DI
当月：21.3 (-0.5)
前月：21.8

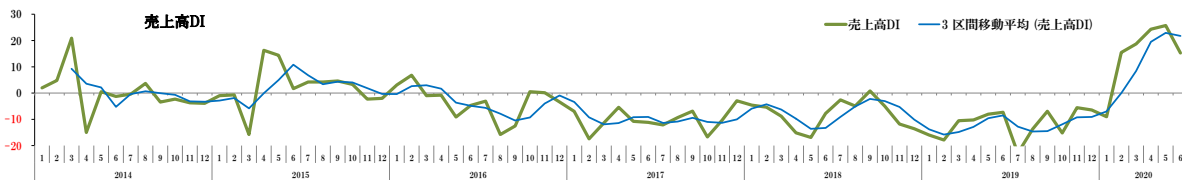
※DI値は前年同月との比較／○内は前月DIからの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

前月からプラス幅は縮小も、引き続きプラス値を維持

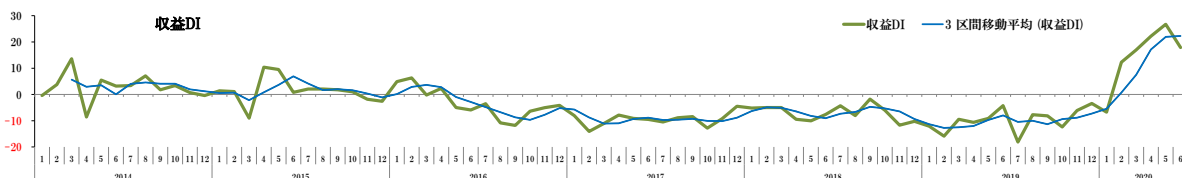
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	5.7	6.3	10.2	35.2	42.6	25.7
売上高 (当月)	6.6	10.8	16.8	46.7	19.2	15.3



2. 収益DI

前月からプラス幅は縮小も、引き続きプラス値を維持

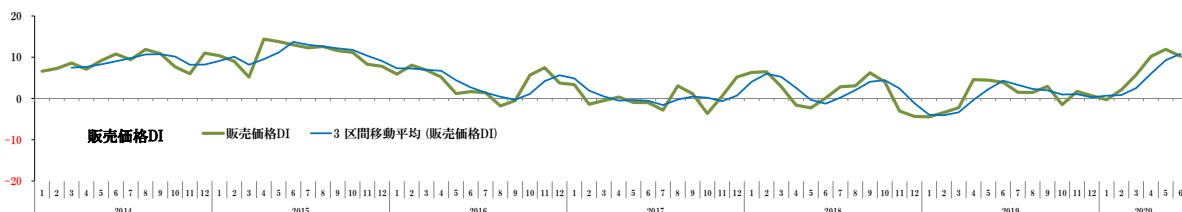
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	4.0	5.7	10.3	39.1	40.8	26.7
収益 (当月)	5.5	10.9	13.3	47.3	23.0	17.9



3. 販売価格DI

前月から横ばいで推移し、二桁プラスが継続

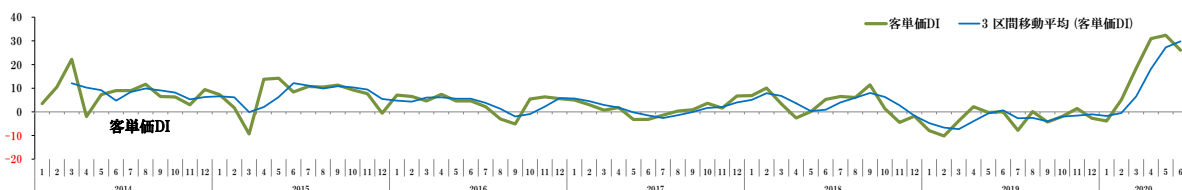
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.6	2.9	54.6	32.2	9.8	11.9
販売価格 (当月)	0.6	3.0	54.8	38.0	3.6	10.2



4. 客単価DI

前月からプラス幅を縮小も、引き続き大幅なプラス値を維持

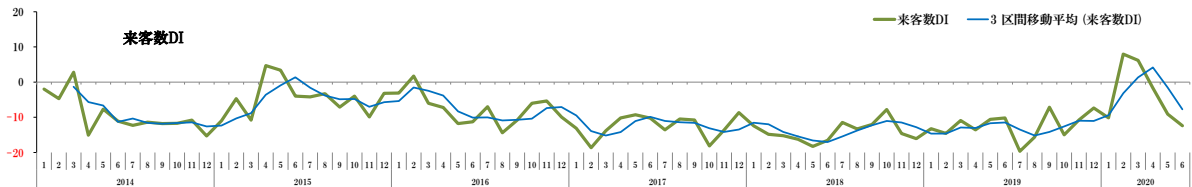
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	0.6	5.2	7.5	37.6	49.1	32.4
客単価 (当月)	1.2	4.2	13.9	50.6	30.1	26.1



5. 来客数 DI

当月小幅に下落し二桁マイナスに低下

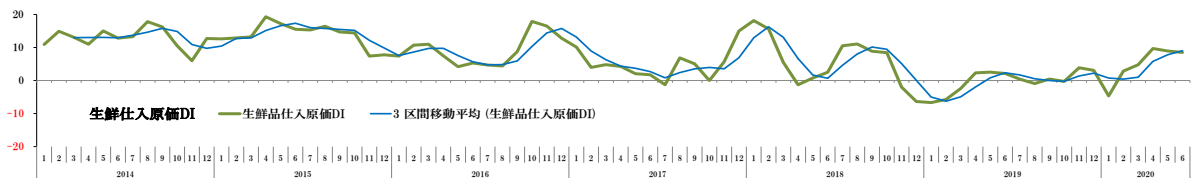
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	19.7	29.5	23.7	22.0	5.2	-9.1
来客数 (当月)	16.2	40.1	25.1	14.4	4.2	-12.4



6. 生鮮仕入原価 DI

プラス幅縮小も、5か月連続でプラス圏を維持

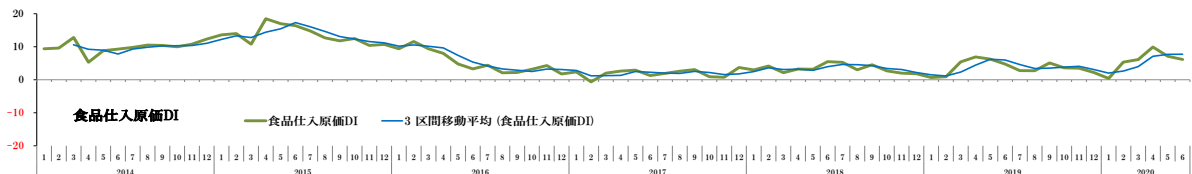
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	0.6	9.4	52.0	29.8	8.2	8.9
生鮮仕入原価 (当月)	1.2	6.2	54.9	32.7	4.9	8.5



7. 食品仕入原価 DI

プラス圏で底堅い推移が続く

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	0.6	4.7	66.3	22.7	5.8	7.1
食品仕入原価 (当月)	0.6	3.7	69.3	23.3	3.1	6.1

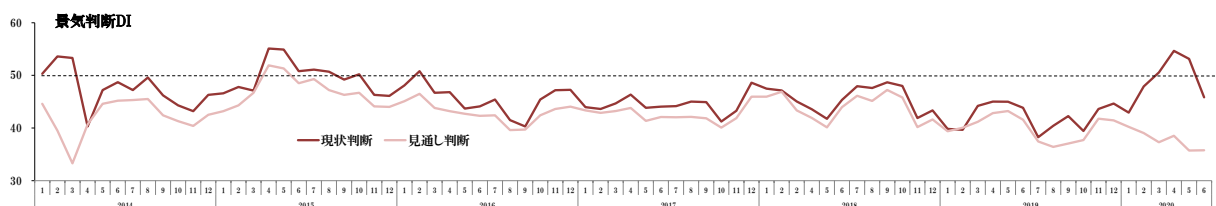


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景気判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景気判断 DI

見通し判断は横ばい推移も、現状判断は50を下回る水準まで悪化

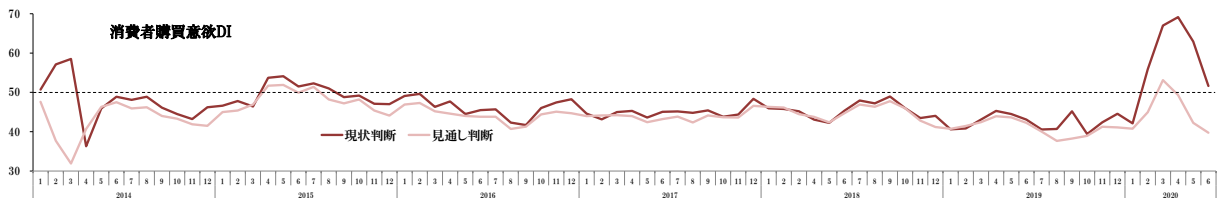
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	8.5	16.5	35.8	32.4	6.8	53.1
【現状】景気判断 (当月)	3.0	34.5	40.5	20.2	1.8	45.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	14.3	40.6	34.3	9.7	1.1	35.7
【見通し】景気判断 (当月)	9.6	46.1	36.5	7.2	0.6	35.8



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断は大幅に悪化も50を上回る水準を維持、見通し判断は小幅に悪化

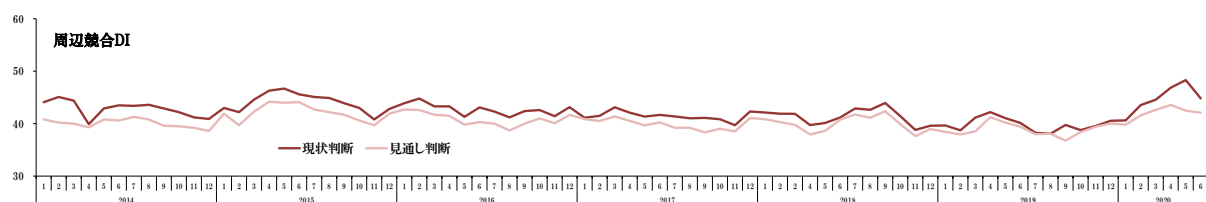
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	2.8	10.2	29.5	47.2	10.2	62.9
【現状】購買意欲 (当月)	1.2	26.6	39.1	30.8	2.4	51.6
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	9.8	32.8	38.5	16.7	2.3	42.2
【見通し】購買意欲 (当月)	7.1	39.9	41.1	10.7	1.2	39.7



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状、見通しともほぼ前月水準で推移

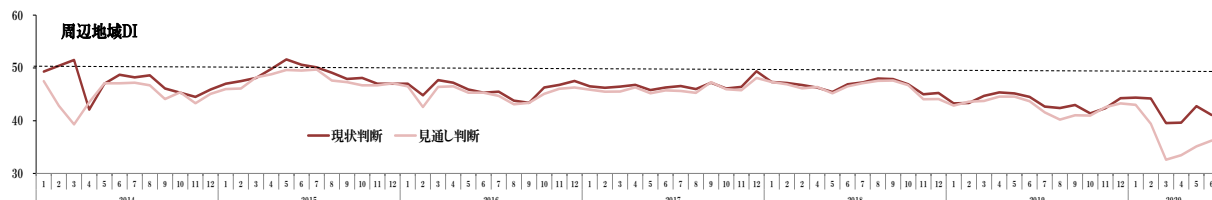
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	3.4	9.6	78.5	7.3	1.1	48.3
【現状】競合状況 (当月)	3.0	18.3	75.1	3.6	0.0	44.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	4.5	25.6	66.5	2.3	1.1	42.5
【見通し】競合状況 (当月)	3.6	25.0	70.8	0.6	0.0	42.1



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状、見通しともに前月水準で推移

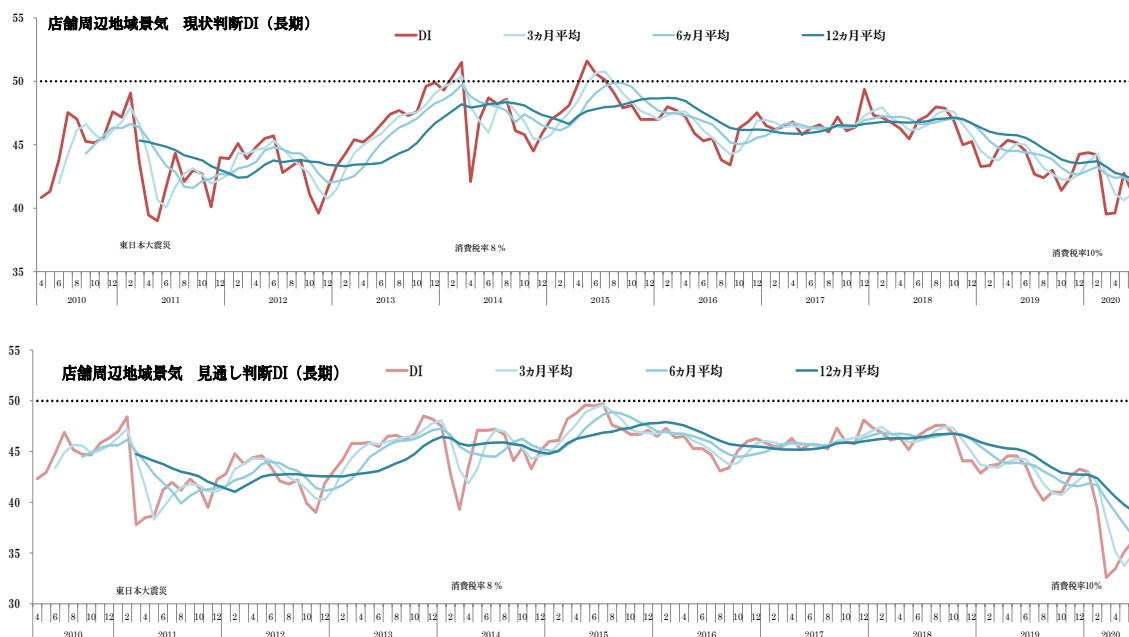
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気(前月)	8.5	26.1	53.4	9.7	2.3	42.8
【現状】地域景気(当月)	4.2	31.5	60.7	3.0	0.6	41.1
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気(前月)	13.7	38.3	42.3	5.1	0.6	35.1
【見通し】地域景気(当月)	7.2	41.9	49.7	1.2	0.0	36.2



・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

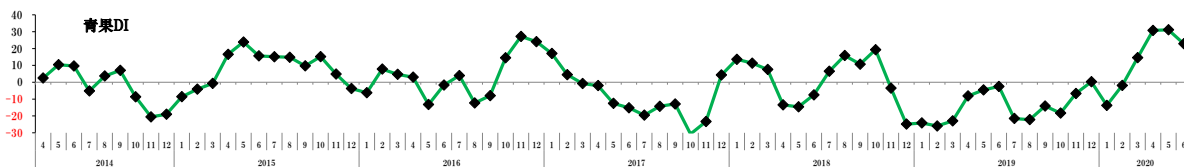
しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下した。20年2月から新型コロナウイルスの影響により大幅な低下がみられたが、5月以降はやや持ち直しているもの、下降トレンドは継続している。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：22.8（かなり好調）

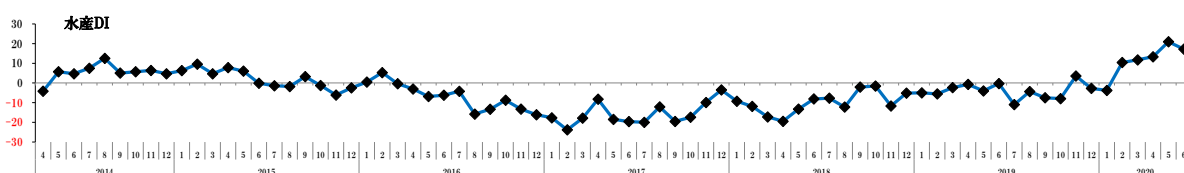
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	2.4	3.0	10.1	36.9	47.6	31.1
青果（当月）	3.1	5.6	17.3	45.1	29.0	22.8



緊急事態宣言の解除後も家庭での調理用食材への需要は高止まりしており、全般的に野菜の買い上げ点数の増加傾向が継続している。また青果相場が前年より高値傾向となっており、特にじゃがいもやにんじん等土物類の上昇幅が高く、一品単価を引き上げた。気温が高くトマトやレタスなどサラダ向け野菜が好調となった。梅は不作により販売期間が短く大幅に売上を落とした店舗が多い。果物類は、輸入果物ではバナナやキウイフルーツが引き続き好調、国産果物は高値であり好不調が分かれているが、気温の影響でスイカが好調となった店舗が多い。

2. 水産DI：17.2（好調）

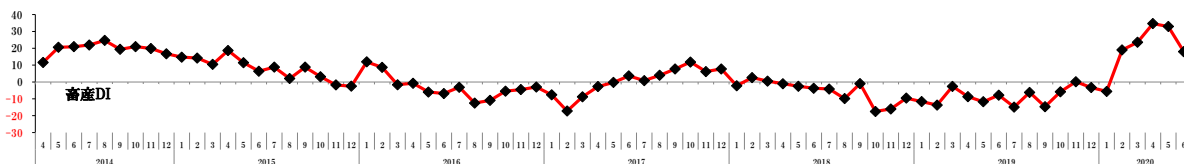
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	3.6	11.3	16.1	35.7	33.3	21.0
水産（当月）	5.6	6.8	21.7	44.7	21.1	17.2



緊急事態宣言の解除後も家庭での調理用食材への需要は高止まりしており、買い上げ点数の上昇がみられており好調となった。これまで好調であった保存可能な冷凍商材や塩干類には落ち着きがみられている一方、鮮魚や刺身類の動きがよくなった。うなぎは相場の低下も追い風となり特に好調となった。前年不漁により不振となったイカ類に回復傾向がみられた。カツオは不漁により不調となった店舗が多かった。

3. 畜産DI：18.0（好調）

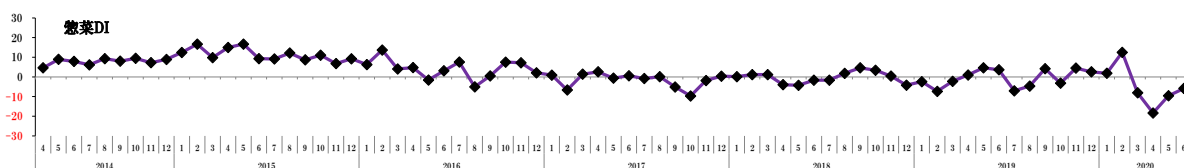
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	3.0	1.8	10.2	30.5	54.5	32.9
畜産（当月）	3.7	7.5	23.6	43.5	21.7	18.0



まとめ買い傾向は落ち着きがみられているものの、家庭での調理用食材への需要は高止まりしており、土日が前年より一日少ない曜日巡りにもかかわらず全般的に好調となった。特に高い気温により焼肉向け商材の動きがよく、なかでも和牛相場が下落しており、高単価商品が引き続き好調となった。国産豚肉は相場が上昇しており伸び悩んだ店舗もみられた。ハムやソーセージなどの加工肉は引き続き好調となっている。

4. 惣菜DI：-5.9（やや不調）

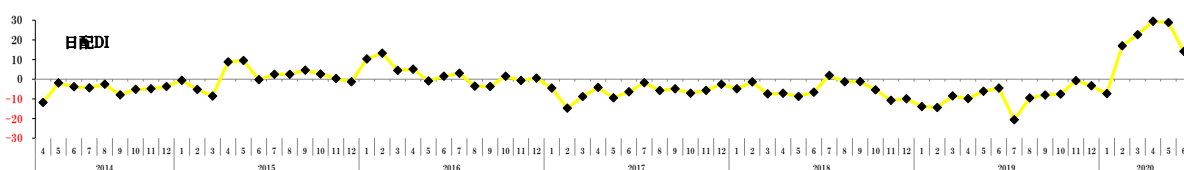
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	16.8	32.9	26.9	18.6	4.8	-9.6
惣菜（当月）	12.3	30.9	27.8	25.9	3.1	-5.9



徐々に緩和しつつあるものの、外出自粛による行楽向け、イベント中止による大人数用惣菜、家庭内調理機会の増加による中食需要の低下、ばら売り販売中止の影響を受け、やや不調傾向が続いている。気温が高く涼味関連の動きがよかった一方で米飯類の動きが悪かった。引き続き宅飲み機会の増加でおつまみ関連惣菜の動きがよかった。寿司類は一部に回復傾向もみられたものの不振となった店舗が多い。

5. 日配DI：14.2（好調）

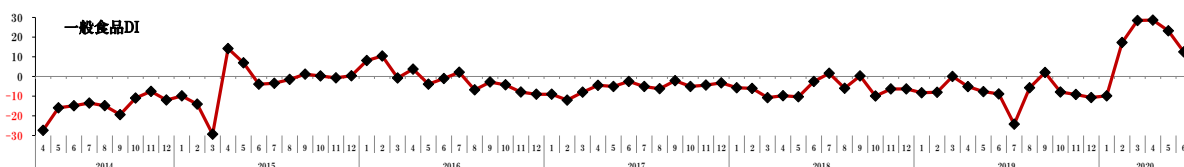
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	3.0	2.4	12.5	40.5	41.7	28.9
日配（当月）	3.1	13.0	24.1	43.8	16.0	14.2



先月と傾向は大きく変わらず、堅調な家庭内消費需要を背景に好調となった。保存可能な冷凍食品の好調は落ち着きもみられているが、牛乳やバター、チーズなどの乳製品をはじめ、免疫力アップとしてヨーグルトや納豆、キムチなど発酵食品の好調が継続している。高い気温によりアイス類やゼリー、麺類などの涼味系商材が好調となった。パン類は気温の影響もあり好不調がわかれている。昨年特需のあった梅干しや甘酒には反動減がみられた。

6. 一般食品：12.5（好調）

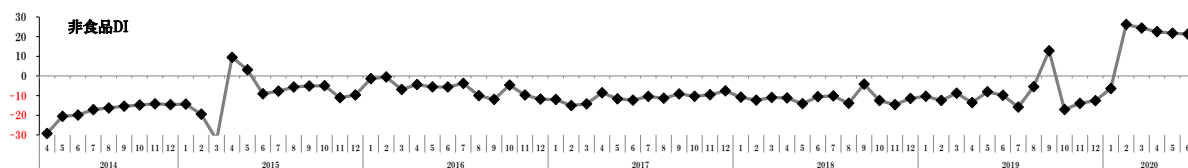
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	4.7	7.6	15.3	34.7	37.6	23.2
一般食品（当月）	6.1	12.8	19.5	48.2	13.4	12.5



先月と傾向は大きく変わらず、堅調な家庭内消費需要を背景に、手作り需要の増大を指摘するコメントが多かった。備蓄用食品には落ち着きがみられているが、調味料やパスタや乾麺、粉類など調理用食品引き続き好調となり、一部には欠品もみられた。高い気温により飲料やめんつゆが好調となった。酒類は、行楽需要減の影響と「家飲み」需要の高止まりにより強弱がわかれている。一部店舗では月末にキャッシュレス・消費者還元終了前の駆け込み需要もみられた。

7. 非食品 DI：21.3（かなり好調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	6.8	8.6	19.1	21.6	43.8	21.8
非食品（当月）	4.5	10.2	16.6	33.1	35.7	21.3



マスクやハンドソープ、除菌用品などの入荷が安定したことで好調に推移した。調理機会の増加により、ラップや保存パックなどの調理補助品、お菓子づくり用品も好調に推移した。また、在宅時間が増えた影響で、台所洗剤、住居用洗剤の売上も好調となった。レジ袋の有料化義務化にむけてマイバッグが好調となった店舗が多かった。キャッシュレス・消費者還元終了前にタバコに買いだめ需要がみられた。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調：～ 20 好調：20 ～ 10 やや好調：10 ～ 0
 やや不調：0 ～ -10 不調：-10 ～ -20 かなり不調：-20～

2020年7月調査（6月実績）キーワード TOP3

1. 家庭内調理機会の増加
2. 土日が一日少ない曜日巡り
3. 気温が高い

（参考）2019年7月調査（6月実績）キーワード TOP3

1. 日曜日が一日多い
2. 平年より高い気温も前年より低い、梅雨時期の遅れ
3. 消費意欲減退

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

6月実績速報版 169社
 5月実績確報版 176社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp